

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡本, 康孝 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009741

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



北太平洋と日本における さけます類の資源と増殖

おかもと やすたか
岡本 康孝 (さけますセンター 業務推進部)

2005 年の北太平洋

漁獲数

第 14 回 NPAFC 年次会議における各国の報告によると、2005 年 1-12 月の北太平洋の漁獲数は 4 億 9,139 万尾で、前年の 3 億 4,391 万尾より 43% 増加しました (図 1A)。

これを魚種別に見ると、カラフトマスが最も多い 3 億 4,397 万尾で全体の 70% を占めており、前年の 1 億 8,247 万尾に比べ 86% 増加しました。次いでサケが 8,827 万尾 (構成比 18%, 対前年比 89%), ペニザケが 5,106 万尾 (構成比 10%, 対前年比 98%) と続き、これら 3 魚種で 98% を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ対前年比 88%, 90% でした (図 1A)。

地域別では、アラスカ州が 2 億 2,189 万尾と最も多く、以下、ロシア 1 億 8,161 万尾、日本 7,550 万尾、カナダ 1,016 万尾、WOCI 220 万尾、韓国 2 万尾と続いています (図 1B)。

人工ふ化放流数

2005 年 1-12 月に人工ふ化放流された幼稚魚数は 48 億 4,660 万尾で、前年の 49 億 9,150 万尾に比べ 2.9% 減少しました。

魚種別ではサケが 29 億 7,125 万尾で半数以上を占め、これに次ぐカラフトマスの 12 億 4,394 万尾と合わせると全体の 8 割以上を占めます。

地域別では日本が 20 億 246 万尾と最も多く、以下、アラスカ州 14 億 2,764 万尾、ロシア 6 億 8,412 万尾、カナダ 4 億 3,761 万尾、WOCI 2 億 8,385 万尾、韓国 1,093 万尾と続いています (図 1C)。

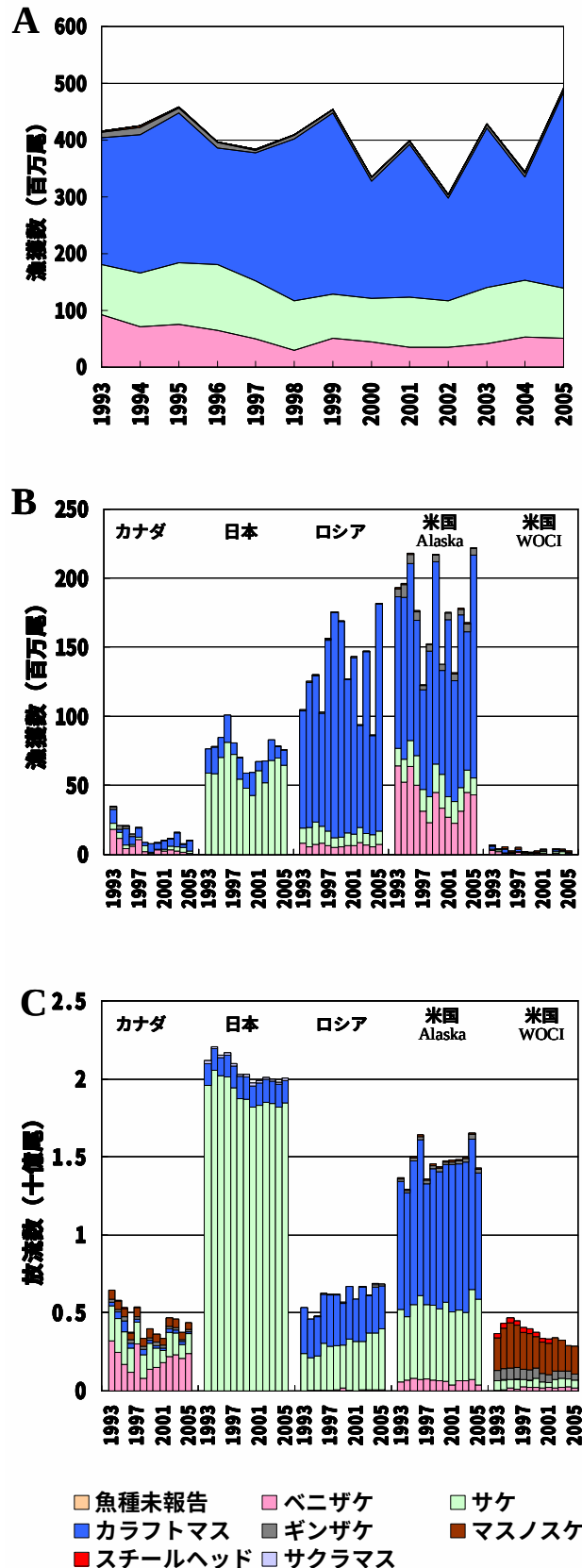


図1. 1993-2005年の北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数(A)、地域別魚種別の漁獲数(B)及び人工ふ化放流数(C)。1993-2001年は「NPAFC Statistical Yearbook」による商業漁獲数の確定値だが、2002年以降はNPAFC年次報告等で示された暫定値である。1998年までのロシアにはEEZ(排他的経済水域)で他国が漁獲したものを含む。WOCIはワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。図1-BのWOCI(2002)のデータは未報告。韓国は他国と比較してわずかなため、図では省略している。

2006 年度の日本

サケ

2006 年度の来遊数（沿岸での漁獲と内水面での捕獲の合計）は 1 月 20 日現在で 6,847 万尾、前年度同期比 96%となっています（図 2）。来遊数の年変動をみると、1996 年度に過去最高を記録した以降、4 年連続で減少しましたが、2000 年度を境に増加傾向に転じ、近年は高水準で推移しています。採卵数は 22 億 2,800 万粒を確保し、計画数 21 億 6,650 万粒を満たしていることから、放流数もほぼ計画どおりの 18 億 500 万尾程度となることが見込まれます。

カラフトマス

主産地である北海道における 2006 年度来遊数は 562 万尾で前年度比 62%となりました。カラフトマスの来遊数は 1994 年に急増して以来、隔年の資源変動を示し、1994-2002 年の偶数年級群での平均が 1,500 万尾、奇数年級群のそれは 700 万尾で、両者にはおよそ 2 倍の開きがありました。しかし近年ではその傾向が崩れ、豊漁年と不漁年の順序が逆転しているように見えます。そんな中、2006 年度についても従来でいう豊漁年にあたる年でありながら、不漁年の昨年よりも少ない来遊数となりました。なお、採卵数は 1 億 7,300 万粒でほぼ前年と同数なので、放流数も前年並みの 1 億 4,000 万尾程度となることが見込まれます（図 3）。

サクラマス

2006 年度の北海道における河川捕獲数は 12,300 尾で前年度比 308%と 3 倍以上になり、少なかった前年度から平年並みの値に戻りました。採卵数は 400 万粒でほぼ前年度並みとなっております。なお、本州の資源については現在調査中です（図 4）。

ベニザケ

2006 年度の河川捕獲数は 1001 尾で前年度比 107%と増加し、1995 年以降の千尾台の捕獲数となりました。採卵数は 82 万粒と前年度の 3 倍以上になりました。当センターでは北海道の 3 河川でベニザケの人工ふ化放流に取り組んでいますが、1990 年代前半に比べると捕獲数が少ない状態が続いています。

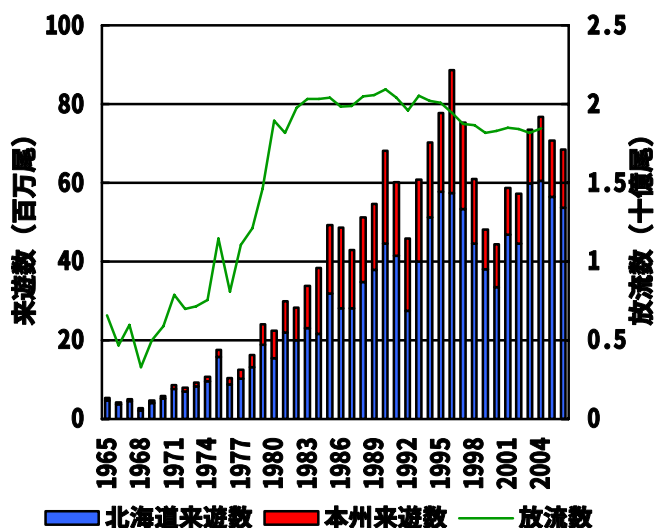


図2. 1965-2006年度の日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数。2006年度来遊数は1月20日現在。

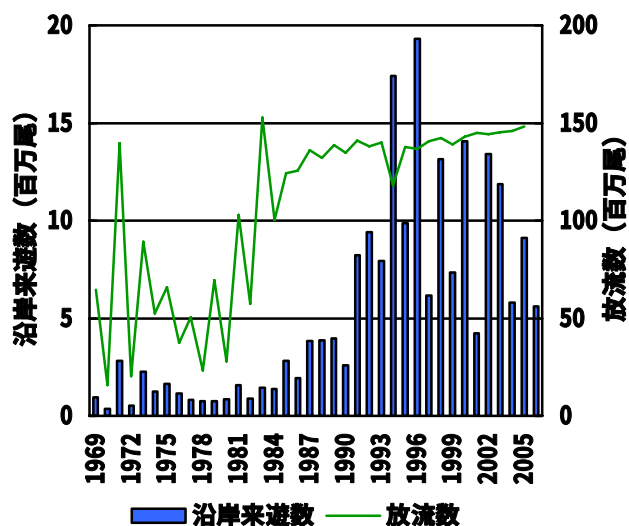


図3. 1975-2006年度の日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

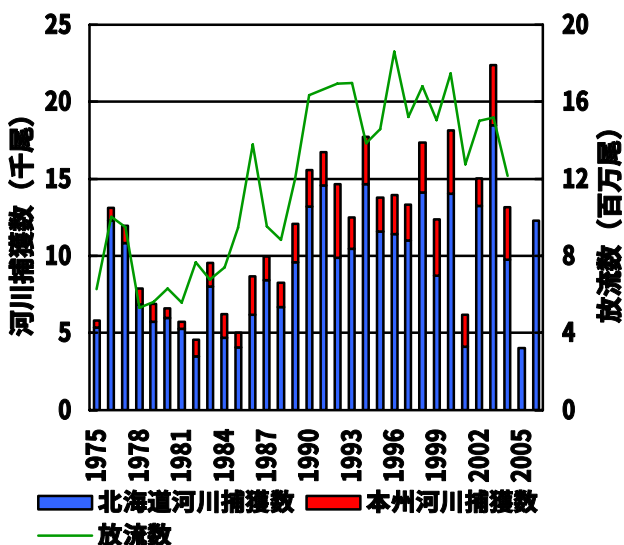


図4. 1975-2006年度の日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数。